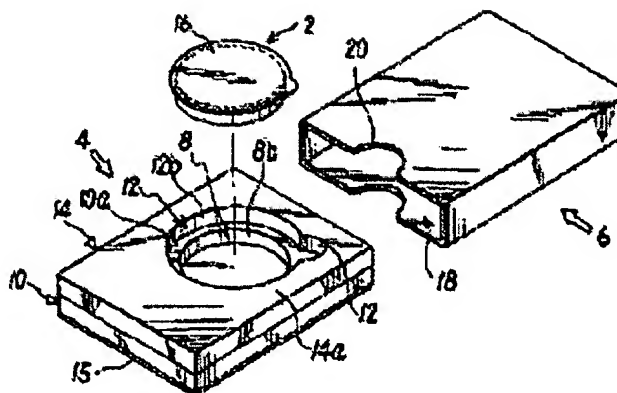


BD

COSMETICS FOR MAKING UP**Publication number:** JP10085033**Publication date:** 1998-04-07**Inventor:** TOMITA HIDEMI; KOTANI HIROMI; TSUCHITANI
MASAHIDE; KOGA MARIKO; JIYOUNEN NANA**Applicant:** D & D STUDIO KK; PIAS ARISE KK**Classification:****- international:** **A45D33/00; A45D33/00;** (IPC1-7): A45D33/00;
A45D33/00**- European:****Application number:** JP19960267991 19960918**Priority number(s):** JP19960267991 19960918[Report a data error here](#)**Abstract of JP10085033**

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable a case to be dumped as a combustible, by constituting a vessel support board by coating with an oil resistant resin film onto an exposed face of a thick board made of a paper material formed by punching out a retaining hole through an inner tray and forming an outer vessel of a paper material. **SOLUTION:** A vessel support board 4 is constituted by laminating an inner tray member 10 formed by punching out a circular hole 8 for retaining through a thick board made of a paper material and a puff storage member 14 formed by punching out a puff storage hole 12 through a thick board together and adhering a bottom board 15 constituted of a paper material to the bottom face of the laminated body of the inner tray storage member 10 and the puff storage member 14. Respective exposed faces 10a and 14a of the inner tray storage member 10 and the puff storage member 14 and the periphery face 12b of the puff storage hole 12 to be in contact with the periphery face of the puff are coated by an oil resistant resin film. An outer vessel 6 is covered by recycled paper, etc. To form it into a box with a size to cover just the outer periphery faces of the vessel support board 4.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-85033

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月7日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 5 D 33/00

識別記号

6 5 0

6 1 5

F I

A 4 5 D 33/00

6 5 0 A

6 5 0 F

6 1 5 Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-267991

(22) 出願日 平成 8 年 (1996) 9 月 18 日

(71) 出願人 596146500

株式会社ディアンドディ スタジオ

東京都世田谷区瀬田 2-31-36

(71) 出願人 000112266

ピラス株式会社

大阪府大阪市北区豊崎 3 丁目 19 番 3 号

(72) 発明者 富 田 秀 美

東京都世田谷区瀬田 2-31-36 株式会社

ディアンドディスタジオ内

(72) 発明者 小 谷 博 美

兵庫県明石市朝霧山手町 16-1

(74) 代理人 弁理士 林 宏 (外 2 名)

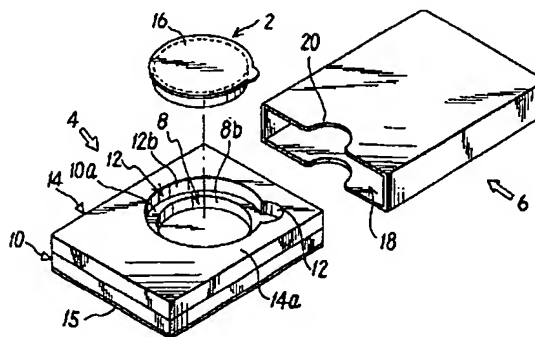
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 メークアップ化粧品用ケース

(57) 【要約】

【課題】 ケーキ・メークアップ化粧品のケースを紙材料で形成して、ケースを可燃物として処理できるようにする。

【解決手段】 中皿 2 を保持する容部支持板 4 と外部容器 6 とからなる。容部支持板 4 は、中皿 2 の保持用凹穴 8 を打抜きにより形成した紙材料からなる厚肉ボードの露出面 10 a、14 a を耐油性樹脂膜で被覆する。外部容器 6 は紙材料で形成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ケーキ・メイクアップ化粧品を収容した中皿を保持する容部支持板と、それを収容する外部容器とからなり、

上記容部支持板は、中皿の保持用凹穴を打抜きにより形成した紙材料からなる厚肉ボードの露出面を耐油性樹脂膜で被覆することにより構成し、

上記外部容器は紙材料により形成した、ことを特徴とするメイクアップ化粧品用ケース。

【請求項2】 請求項1に記載のメイクアップ化粧品用ケースにおいて、

容部支持板に、塗布具を収容する凹穴を打抜きにより形成した、ことを特徴とするメイクアップ化粧品用ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、化粧品用の容器、特にケーキ・メイクアップ化粧品を収容するメイクアップ化粧品用ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 ケーキ・ファンデーションその他のケーキ・メイクアップ化粧品は、女性が極めて一般的に使用する化粧品の一つであるが、その容器であるメイクアップ化粧品用ケースを構成する殆どの部分は、通常、合成樹脂や金属、硝子等を組み合わせて、豪華、優美さを強調するように形成しているため、ケース自体が比較的高価になってしまうばかりでなく、ケーキ・メイクアップ化粧品の使用後において、そのメイクアップ化粧品用ケースを捨てる際に、不燃ごみとして処理する必要があり、あるいはそれらを分解して分別する場合には非常に面倒であるという問題点がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の技術的課題は、ケーキ・メイクアップ化粧品のケースを、主にリサイクル紙等の紙材料を利用して形成することにより、そのケースを捨てる際に可燃物として処理できるようにしたメイクアップ化粧品用ケースを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため、本発明のメイクアップ化粧品用ケースは、ケーキ・メイクアップ化粧品を収容した中皿を保持する容部支持板と、それを収容する外部容器とからなり、上記容部支持板は、中皿の保持用凹穴を打抜きにより形成した紙材料からなる厚肉ボードにおける露出面を耐油性樹脂膜で被覆することにより構成し、上記外部容器は紙材料により形成したことを特徴とするものである。上記容部支持板には、塗布具を収容する凹穴を打抜きにより形成することができる。

【0005】 上記構成を有するメイクアップ化粧品用ケースは、容部支持板と外部容器とが紙材料により形成さ

れているので、そのケーキ・メイクアップ化粧品の使用後において、そのケースを捨てる際に、可燃物として処理することができる。また、ケーキ・メイクアップ化粧品の中皿や塗布具を収容する容部支持板を、紙材料からなる厚肉ボードにより形成したので、全体を紙製としながら十分な強度を保持させることができ、しかも紙材料からなる容部支持板の露出面を耐油性樹脂で被覆しているので、油性のケーキ・メイクアップ化粧品における油分が容部支持板にしみ込んだりすることもない。

【0006】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明するに、図1は本発明に係るメイクアップ化粧品用ケースの第1実施例を示している。このメイクアップ化粧品用ケースは、概略的には、図1に示すように、ケーキ・メイクアップ化粧品の代表例であるケーキ・ファンデーションを収容した中皿2を保持する容部支持板4と、その容部支持板4を収容する外部容器6とから構成されており、それらの容部支持板4と外部容器6とは、リサイクル紙等の紙材料により形成されている。このように、容部支持板4及び外部容器6をリサイクル紙等の紙材料により形成することにより、全体として可燃廃棄可能とし、しかも軽量化により形態に便利にしている。

【0007】 さらに具体的には、上記容部支持板4は、紙材料からなる厚肉ボードの打抜きにより、そのほぼ中央に上記中皿2を収容するための円形の保持用凹穴8が形成された中皿収容部材10と、該中皿収容部材10と同様の厚肉ボードの打抜きにより、そのほぼ中央に塗布具としてのパフを収容するための、上記中皿2の保持用凹穴8より若干大径のパフ収容穴12が形成されたパフ収容部材14とを積層して、それらの中皿収容部材10とパフ収容部材14との積層体の底面に、紙材料からなる底板15を貼着することにより構成されている。この容部支持板4の外周面には、必要に応じて、中皿収容部材10とパフ収容部材14との接合面を隠すための化粧紙等を貼着することができる。

【0008】 上記容部支持板4は、中皿収容部材10とパフ収容部材14とを並設して一体化することにより、中皿2の保持用凹穴8とパフ収容穴12とを並べて設けた構成とすることもでき、さらには、パフ収容部材14を設けずに、中皿収容部材10のみの構成とすることもできる。また、上記パフ収容穴12は、図1に示すような円形のものに限らず、パフの形状に応じて、図2に示すように、それぞれの辺が中皿2の保持用凹穴8の直径よりも大きい略矩形のものとすることもできる。なお、図中12aは、パフを取り上げる際に指をかけるための指かけ用切欠であり、とくに必要がなければ省略することもできる。

【0009】 そして、それらの中皿収容部材10及びパフ収容部材14のそれぞれの露出面10a、14aと、

上記パフの周囲が接触するパフ収容穴12の周囲12bは、ケーキ・ファンデーションの油分のしみ込みや、紙材料の劣化を防止するため、耐油性樹脂膜で被覆している。なお、上記中皿2を保持用凹穴8に嵌着したときに、該保持用凹穴8の周囲8bが中皿2の縁より上方において露出している場合には、その露出部分も耐油性樹脂膜で被覆する必要がある。

【0010】ケーキ・ファンデーションを収容した中皿2は、炭酸カルシウム含有の合成樹脂により上記容部支持板4の保持用凹穴8と略同径の円形に形成されている。そして、この中皿2は、上記保持用凹穴8に嵌着することにより該容部支持板4に保持されており、その上面には、合成樹脂シートからなる蓋16を被着し、周縁部が中皿2に融着されている。この蓋16は、収容されたケーキ・ファンデーションの劣化（酸化）を防止すると共に、油分の浸出を防止するためのものである。なお、この中皿2は、上述のような合成樹脂製のものに限らず、紙材料を耐油性樹脂膜で被覆することにより形成したものや、アルミニウム等の金属製のものを使用することもできる。なお、中皿2を金属製としても、この中皿2は容部支持板4の保持用凹穴8に嵌着したにすぎないので、当該ケースを捨てる際にも、簡単に分離することができる。

【0011】上記外部容器6は、リサイクル紙等により上記容部支持板4の外周面を丁度覆う程度の大きさの箱型に形成されており、その一側面に、上記容部支持板4を挿入するための挿入口18が開設されている。そして、その挿入口18の上縁及び下縁は、挿入された容部支持板4を取り出す際に、該容部支持板4を把持するべくその一部が露出するように切欠部20が設けられている。この切欠部20は、挿入口18の上縁及び下縁に限らず、左右両側縁に形成したものとすることもできる。

【0012】この外部容器6は、その内面を、必要に応じて適宜耐油性樹脂膜で被覆することができるが、特に、中皿2に収容されたケーキ・ファンデーションが付着する可能性がある当該容器6の内側上面を耐油性樹脂膜で被覆するのが適切である。

【0013】上記構成を有するメイクアップ化粧品用ケースは、それを構成する容部支持板4及び外部容器6を、リサイクル紙等の紙材料により形成しているので、ケーキ・ファンデーションを収容した中皿2を炭酸カルシウム含有の合成樹脂で形成すると、ケーキ・ファンデーションの使用後においてそのケースを捨てる際には、それを分解したり、分別する必要がなく、ケース自体をそのまま可燃物として処理することができる。また、ケーキ・ファンデーションの中皿やパフを収容する容部支持板4を、紙材料からなる厚肉ボードにより形成したので、全体を紙製としながら十分な強度を保持させることができる。さらに、ケーキ・ファンデーションが付着する可能性がある部分、例えば、容部支持部4における中

皿収容部材10及びパフ収容部材14のそれぞれの露出面10a、14aや、パフの周囲が接触するパフ収容穴12の周囲12bを耐油性樹脂膜で被覆しているので、仮にケーキ・ファンデーションがその部分に付着しても、その油分がしみ込んで汚れたり、紙材料が劣化したりとすることがない。

【0014】図3は、本発明をケーキ・ファンデーション用のケースに適用した第2実施例を示している。このメイクアップ化粧品用ケースは、その外部容器26を、容部支持板4を接着剤により固定的に接着する底板部28に、側板30を介して蓋部32を設けることにより形成している。この蓋部32の内面は、耐油性樹脂膜で被覆するのが適切である。

【0015】なお、同図においては、側板30と容部支持板4の側面とを貼着せずに、上記底板部28と側板30との間の折曲線29、及び側板30と蓋部32との間の折曲線31において該蓋部32の開閉を行うようにしているが、上記側板30と容部支持板4とを貼着して、側板30と蓋部32との間の折曲線31のみで該蓋部32を開閉するようにしても良い（図4参照）。

【0016】図4乃至図6は、それぞれ上記第2実施例の他の構成態様を示しており、図4及び図5はケーキ・ファンデーション用、図6は口紅、頬紅、あるいはアイシャドー等のケーキ・メイクアップ化粧品のケースに適用した場合を示している。

【0017】即ち、図4に示すケースは、容部支持板4を、図3における中皿収容部材10とパフ収容部材14とを並設して一体化することにより、中皿2の保持用凹穴8とパフ収容穴12とを並べて設けた構成としたものである。

【0018】また、図5に示すケースは、容部支持板4の中皿収容部材10とパフ収容部材14とを分割して、それぞれを底板部28側と蓋部32側とに接着剤により貼着したものである。

【0019】さらに、図6に示すケースは、容部支持板4に、異色の口紅、頬紅、アイシャドー等のケーキ・メイクアップ化粧品の収容した複数の中皿42a、42bの保持用凹穴48a、48bを設けると共に、それらの中皿42a、42bに収容される化粧品に応じた塗布具を収容するための塗布具（パフ）用凹穴52a及び塗布具（筆）用凹穴52bを設けたものである。なお、外側容器26の構成は、図4の場合と同様である。このように、上記容部支持板4には、それに保持する化粧品に応じて、中皿の保持用凹穴を必要数設けることができ、また、塗布具を収容する塗布具用凹穴についても、上記中皿に収容された化粧品に応じて必要な塗布具を収容することができる。この場合、塗布具用凹穴の形状は、収容する塗布具に合わせて適宜の形状に形成することができる。

【0020】なお、上記第2実施例のその他の構成及び

作用は、実質的に第1実施例と同等であるから、同一部分または相当部分に同一符号を付して、それらの説明を省略する。

【0021】図7は、本発明の第3実施例を示しており、この実施例のメイクアップ化粧品用ケースは、ケーキ・ファンデーションを収容した中皿を保持する容部支持板4及びその外部容器66の一角をピン68で回転自在に連結して、上記容部支持板4をピン68を中心として回転スライド式に出し入れするように構成したものである。このピン68は、ケーキ・ファンデーションの使用後にケースをそのまま捨てることができるようにするため、炭酸カルシウム含有の合成樹脂により形成するのが適切である。

【0022】また、図8及び図9は、上記第3実施例の他の構成態様を示すものであり、それぞれ、ファンデーション用のケース、及び口紅、頬紅、あるいはアイシャドー等の化粧品用のケースに適用した場合を示している。

【0023】図8に示すメイクアップ化粧品用ケースは、容部支持板4を、図7における中皿収容部材10とパフ収容部材14とを並設して一体化することにより、中皿2の保持用凹穴8とパフ収容穴12とを並べて設けた構成としたものである。

【0024】図9に示すケースは、容部支持板4に、異色の口紅、頬紅、アイシャドー等のケーキ・メイクアップ化粧品を収容した複数の中皿42a、42bの保持用凹穴48a、48bを設けると共に、それらの中皿42a、42bに収容される化粧品に応じた塗布具を収容するための塗布具（パフ）用凹穴52a及び塗布具（筆）用凹穴52bを設けたもので、容部支持板4の構成態様は、実質的に図6の場合と同様である。また、外部容器66の構成は、図8の場合と同様である。

【0025】ここで、上記第3実施例のその他の構成及び作用は、実質的に前記第1実施例及び第2実施例と同等であるから、同一部分または相当部分に同一符号を付

して、それらの説明を省略する。

【0026】

【発明の効果】以上に詳述した本発明のメイクアップ化粧品用ケースによれば、容部支持板と外部容器とが紙材料により形成されているので、そのケーキ・メイクアップ化粧品の中皿やパフを収容する容部支持板を、紙材料からなる厚肉ボードにより形成したので、全体を紙材料としながら十分な強度を保持させることができ、しかも紙材料からなる容部支持板の上部露出面を耐油性樹脂で被覆しているため、油性のケーキ・メイクアップ化粧品における油分が容部支持板にしみ込んだりすることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例を示す斜視図である。

【図2】第1実施例の他の構成態様を示す斜視図である。

【図3】本発明の第2実施例を示す斜視図である。

【図4】第2実施例の他の構成態様を示す斜視図である。

【図5】第2実施例の他の構成態様を示す斜視図である。

【図6】本発明の第3実施例を示す斜視図である。

【図7】第3実施例の他の構成態様を示す斜視図である。

【図8】第3実施例の他の構成態様を示す斜視図である。

【図9】第3実施例の他の構成態様を示す斜視図である。

【符号の説明】

2, 42a, 42b 中皿

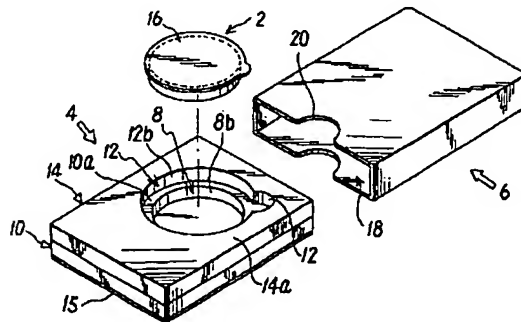
4 容部支持板

6, 26, 66 外部容器

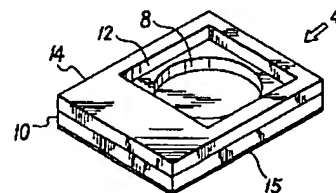
8, 48a, 48b 保持用凹穴

10a, 14a 露出面

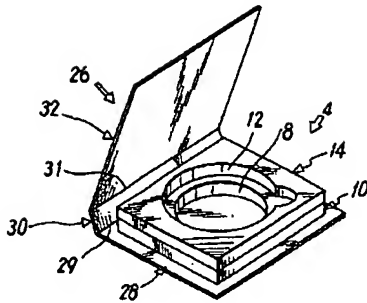
【図1】



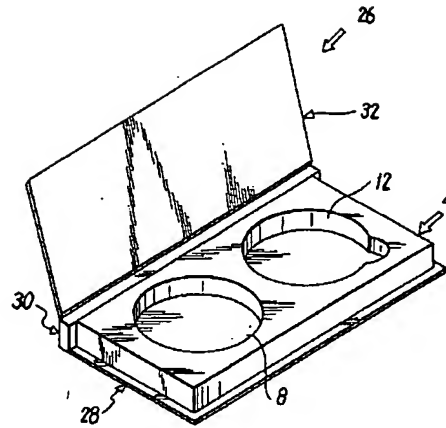
【図2】



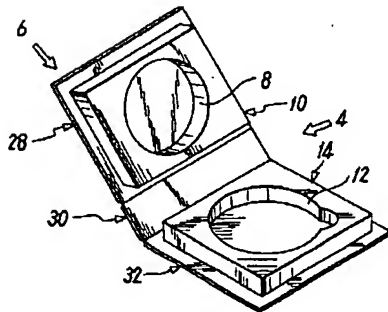
【図3】



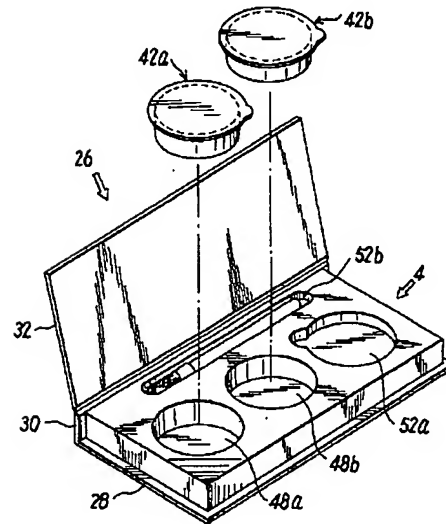
【図4】



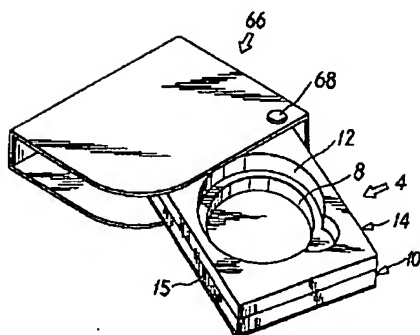
【図5】



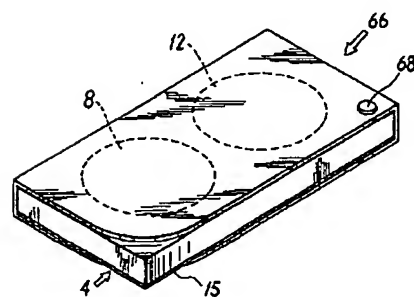
【図6】



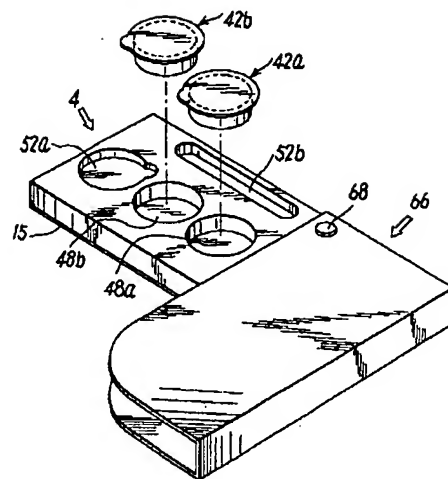
【図7】



【図8】



【図9】



フロントページの続き

(72)発明者 榎谷 正 秀
 大阪市平野区加美鞍作2-15-9

(72)発明者 古 賀 真理子
 箕面市箕面5-1-48 B-213
 (72)発明者 上 念 奈 奈
 神戸市北区星和台4-16-12